

# 2016年3月期第2四半期決算概要および 米国水処理エンジニアリング会社の子会社化について



2015年10月29日  
メタウォーター株式会社

- I 2016年3月期第2四半期の成果
- II 米国水処理エンジニアリング会社の子会社化について
- III 2016年3月期第2四半期決算概要

## <セグメント情報>

### □プラントエンジニアリング事業(略語:PE事業)

当セグメントでは、浄水場内の浄水プロセス、下水処理場内の下水処理プロセス、汚泥処理プロセスに使用する機械設備の設計・建設と、それらを運転するための電気設備の設計・建設を核とした各種エンジニアリングを主たる業務としています。

### □サービスソリューション事業(略語:SS事業)

当セグメントでは、浄水場、下水処理場、ごみ処理施設・リサイクル施設向けの機械設備や電気設備の補修工事、維持管理(保守・点検)、運転管理などの各種サービスを主たる業務としています。

## <略語>

EPC Engineering, Procurement and Construction: 設計・建設

O&M Operation and Maintenance: 運転・維持管理

PPP Public-Private Partnership: 官民連携

PFI Private Finance Initiative: 公共施設の設計・建設、運転・維持管理、資金調達に民間を活用する公共事業の手法

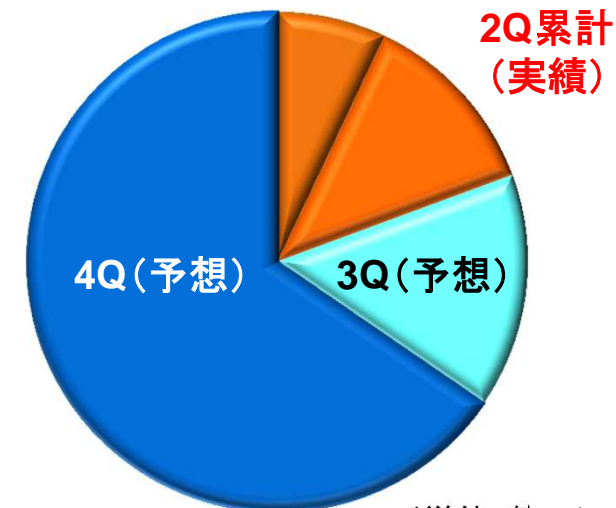
DBO Design, Build and Operate: 公共施設などの設計・建設、運転・維持管理に民間を活用する公共事業の手法

- I 2016年3月期第2四半期の成果
- II 米国水処理エンジニアリング会社の子会社化について
- III 2016年3月期第2四半期決算概要

# '16/3期2Q決算ハイライト(連結)

'16/3期 四半期別売上構成

- \* EPC受注・売上の下期偏重により減収減益となったものの、概ね予想通りに推移
- \* 受注高も順調に積み上がっていることから、通期業績予想に変更なし



(単位: 億円)

	受注高	売上高	営業利益	経常利益	四半期／当期純利益
'16/3期2Q累計実績	<b>565</b> 前期比: $\Delta 62$	<b>215</b> 前期比: $\Delta 16$	<b><math>\Delta 57</math></b> 前期比: $\Delta 18$	<b><math>\Delta 56</math></b> 前期比: $\Delta 18$	<b><math>\Delta 39</math></b> 前期比: $\Delta 14$
'15/3期2Q累計実績	627	231	$\Delta 39$	$\Delta 38$	$\Delta 25$
'16/3期通期予想(変更なし)	1,180	1,110	84	81	52

## PE事業 受注高1億円以上の工事が20件完了

- \* 東京都下水道局 新河岸水再生センター汚泥焼却炉脱水設備工事(2Q)
- \* 甲府市上下水道局 甲府市浄化センター汚泥焼却施設増設(電気設備)工事(2Q)
- \* 沖縄県企業局 新石川浄水場オゾン処理機械設備工事(1Q)
- \* 東京都水道局 村山山口貯水池外7か所監視制御設備等整備工事(1Q) など

## SS事業 新規の運転・維持管理を2件開始

- \* 大阪府枚方市 中宮浄水場 浄水施設運転管理業務等委託契約の更新(2Q)
- \* 長崎県佐世保市 山の田浄水場統合事業(維持管理・運営)を開始(1Q)
- \* 宮城県女川町 水産加工団地排水処理施設整備等事業(維持管理・運営)を開始(1Q) など

## 10億円以上の大型案件を8件受注

### PE事業 EPC

- \* 東京都下水道局 南部汚泥処理プラント汚泥焼却炉脱水設備工事(2Q)
- \* 三重県 志登茂川浄化センター中央監視制御設備工事(2Q)
- \* 京都府綾部市 新第一浄水場機械設備工事(2Q)
- \* 北海道釧路市 第三回拡張事業愛国浄水場水処理プラント設備工事(1Q)  
など

### SS事業 PPP(PFI/DBO)

- \* 御殿場市・小山町広域行政組合ごみ再資源化施設(リサイクルセンター)整備及び運営事業の契約締結(2Q)
- \* 愛媛県四国中央市 中田井浄水場等更新整備・運営事業(1Q)  
など

## Ⅱ 米国水処理エンジニアリング会社の子会社化について

- 1 Aqua-Aerobic Systems, Inc.の概要
- 2 子会社化のスキーム
- 3 子会社化の背景
- 4 子会社化のねらい
- 5 中期目標の達成に向けて



## 特徴

- \* 独自の技術で高い市場プレゼンスを獲得している製品群
  - ・三次処理向け布ろ過装置 (クロスメディアフィルターシステム)
  - ・回分式下水処理装置 ・膜ろ過装置 ・曝気装置
  - ・攪拌装置 ・プロセス制御システム など
- \* 全米をカバーする販売代理店、コンサルティング会社、土木建築会社などとのネットワークを生かした多数の協働実績
- \* 安定した収益基盤を有し、過去10年間営業黒字を継続

## 概要

会社名	Aqua-Aerobic Systems, Inc. (アクア エアロビック システムズ インク)
所在地	米国イリノイ州
代表者	Mr. Robert J. Wimmer, President and CEO
事業概要	上下水道の水処理に関する エンジニアリング事業およびサービス事業
創業	1969年5月
売上高	US\$ 68.9 M
営業利益	US\$ 7.8 M <span style="float: right;">* 2014年12月期</span>
従業員数	125人



AQUA-AEROBIC SYSTEMS, INC.

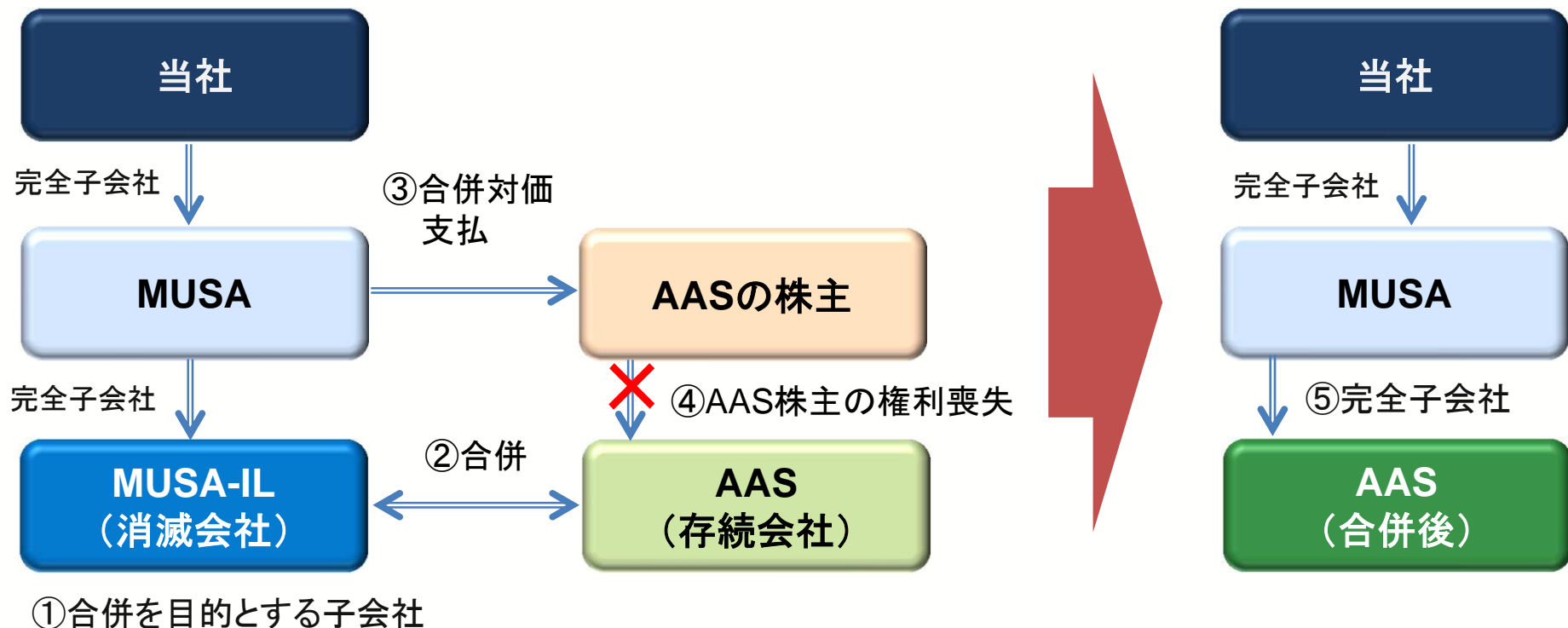


Mr. Robert J. Wimmer  
President and CEO



AASを存続会社、  
合併を目的としたMETAWATER USA, INC.(MUSA)の子会社  
MUSA-IL,INC.(MUSA-IL)を消滅会社として吸収合併を行う

## ■本件スキーム図

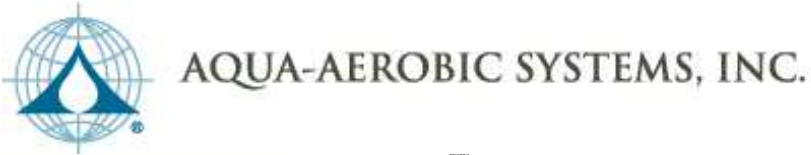


市場成長が見込まれ、災害の深刻化や環境規制の厳格化への対応が求められる米国で事業拡大を目指す



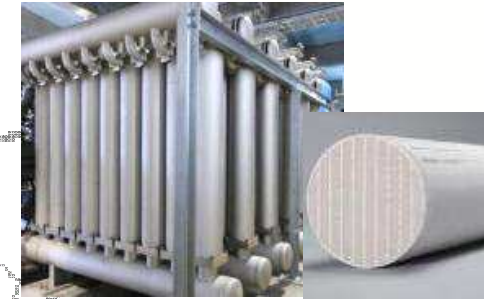
# 子会社化のねらい

METAWATER



METAWATER

セラミック膜ろ過システム



経営リソース提供

当社の経営リソースを背景に、AASは、大型案件、複数案件の獲得が可能に

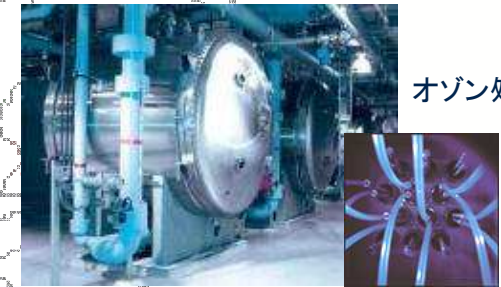
米国事業基盤提供

当社の強みである技術・製品を、AASの事業基盤を通じて展開が可能に

技術・製品開発

両社の技術・ノウハウを融合し、市場ニーズに合った製品・ソリューションの開発が可能に

オゾン処理システム



多層燃焼流動炉

高速ろ過システム



METAWATER Co., Ltd. All Rights Reserved.

三次処理向け布ろ過装置  
(クロスメディアフィルターシステム)



回分式下水処理装置



膜ろ過装置



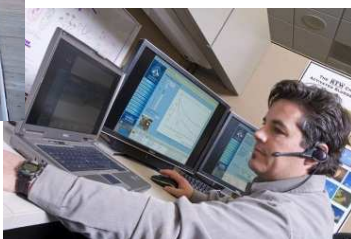
曝気装置



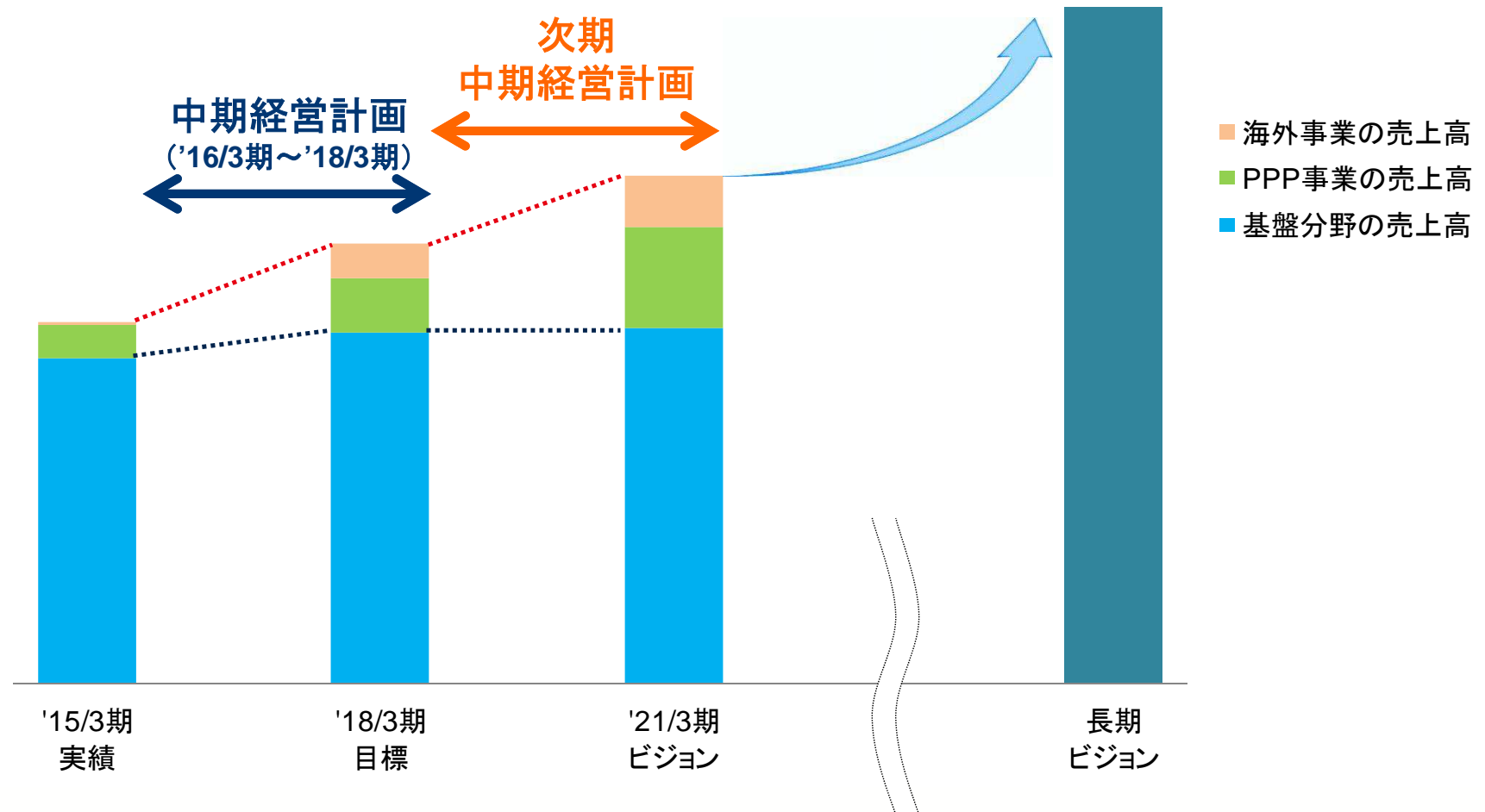
攪拌装置



プロセス制御システム



## AAS子会社化により 中期経営計画の海外事業目標に向けて前進 次期中期経営計画、長期ビジョンへ



## Ⅲ 2016年3月期第2四半期決算概要

- 1 連結損益計算書
- 2 当社の特徴(四半期別)
- 3 セグメント情報
- 4 連結貸借対照表
- 5 連結キャッシュ・フローの状況
- 6 通期の業績予想

# 連結損益計算書(16年3月期2Q累計の業績)

■ 対前期では減収減益となるものの、概ね予想通りに推移

(単位:億円)

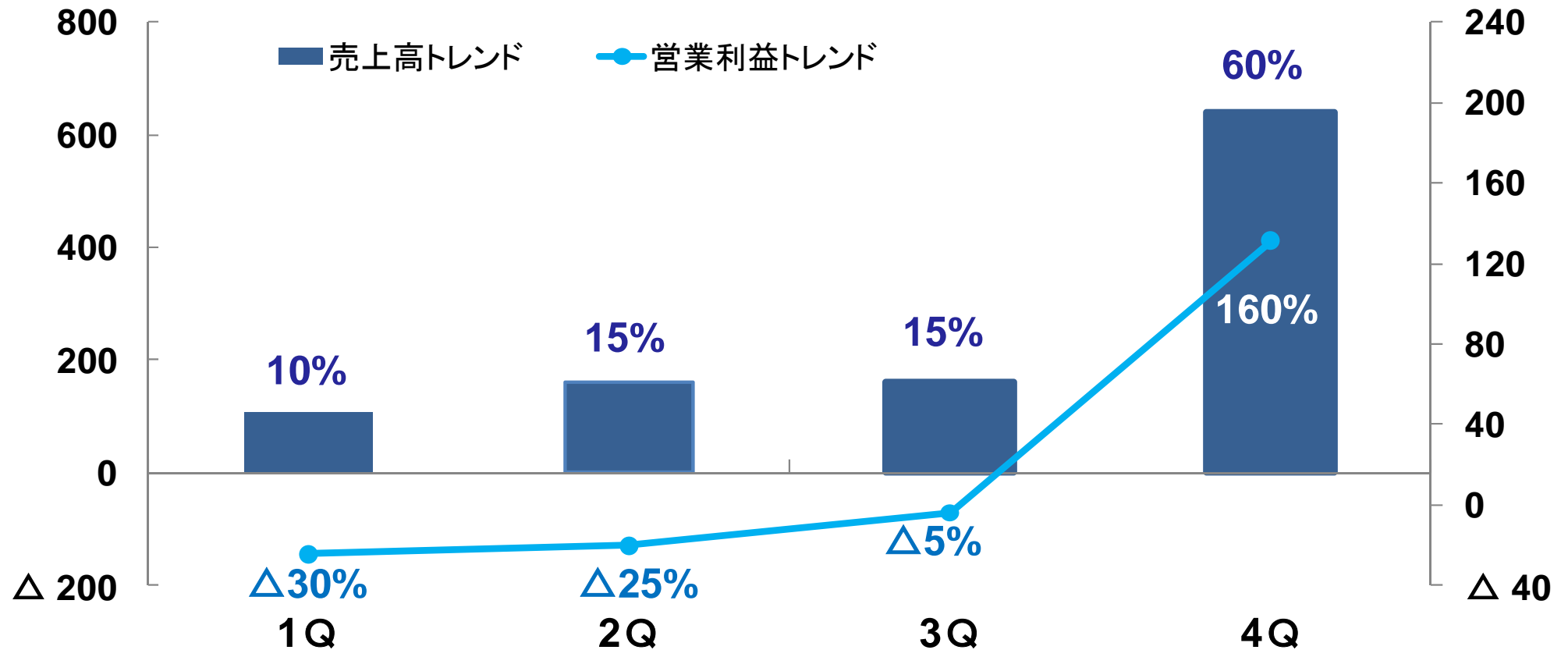
	'15/3期 2Q実績	'16/3期 2Q実績	増 減
売 上 高	231	215	△16
営 業 利 益	△39	△57	△18
( 営 業 利 益 率 )	△16.8%	△26.4%	
経 常 利 益	△38	△56	△18
親会社株主に帰属する 四 半 期 純 利 益	△25	△39	△14

\* 10百万円単位を四捨五入

Copyright© METAWATER Co., Ltd. All Rights Reserved.

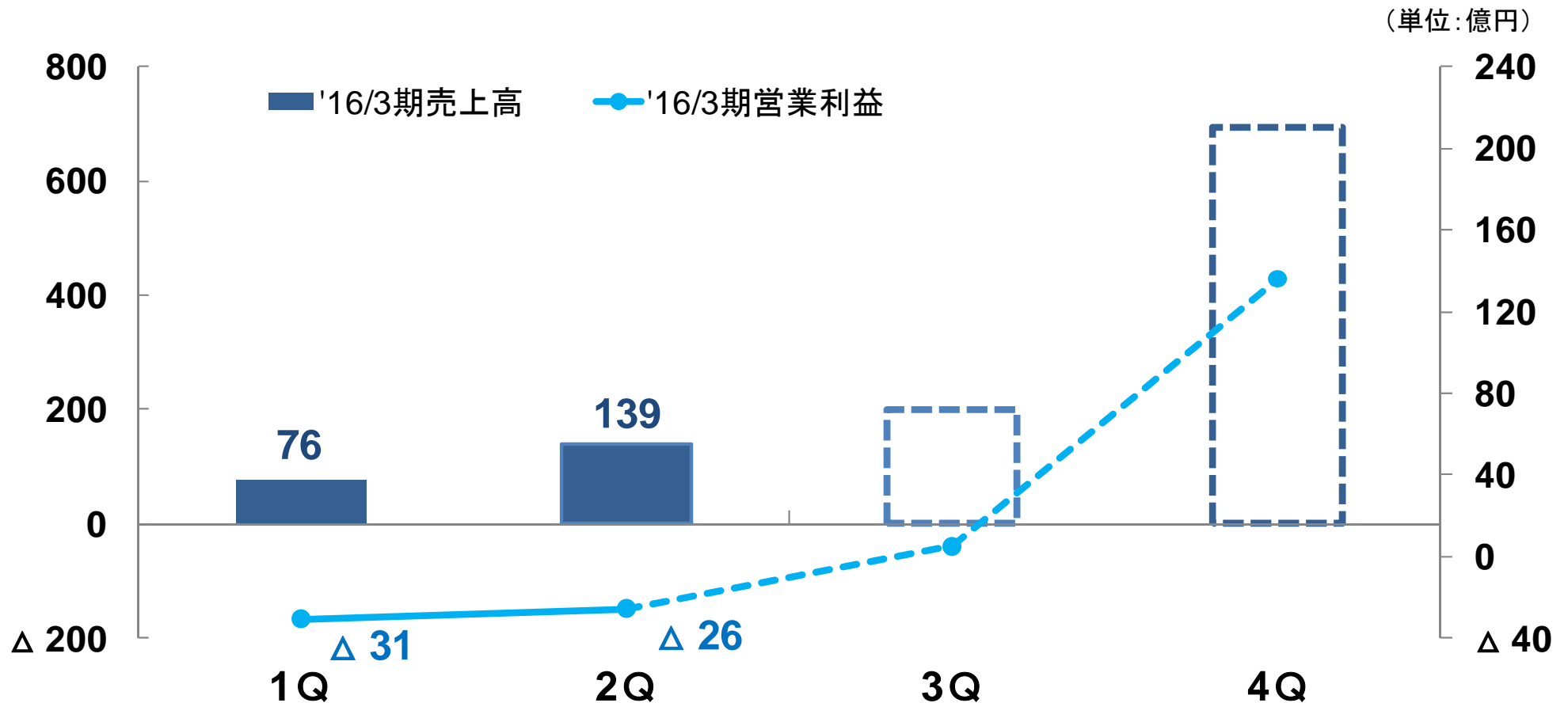
## ■トレンドとして収益計上は“第4”四半期に集中

(単位:億円)





## ■概ねトレンド通りの推移



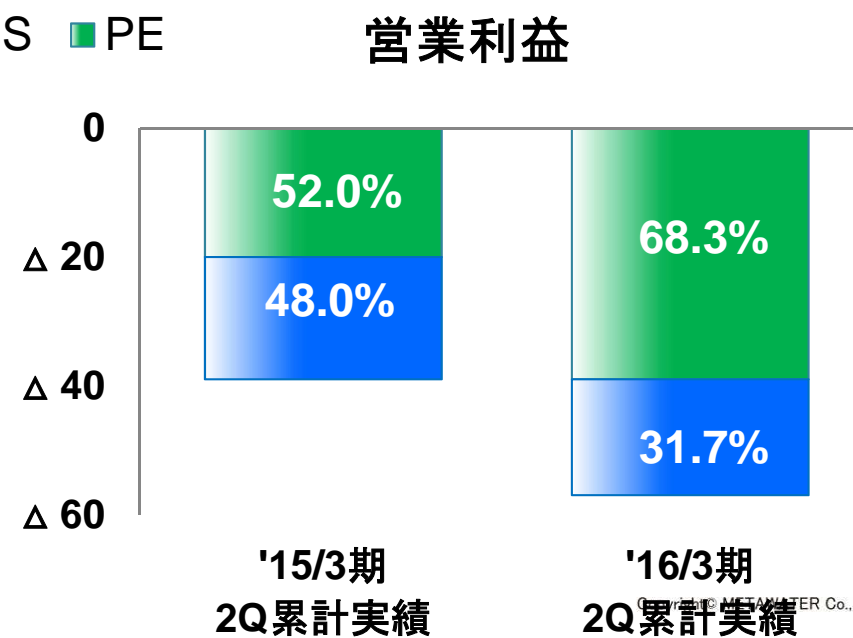
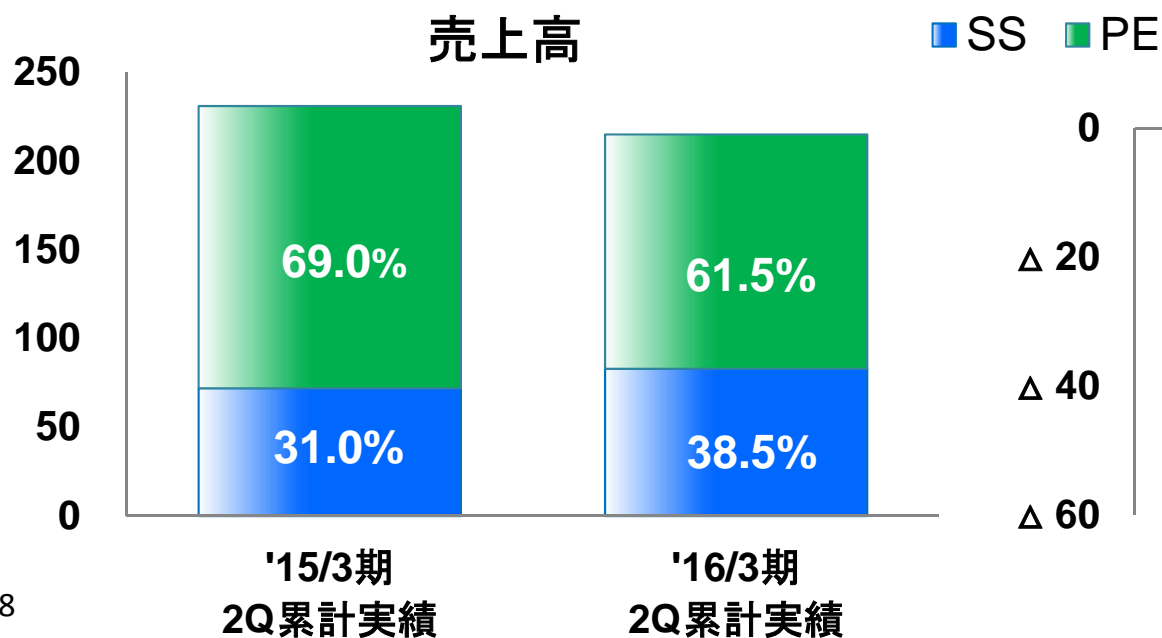
【年間合計】  
 '16/3期予想      売上高      営業利益  
                          1,110億円      84億円

- PE事業：大型案件の減少を主要因として、売上高、営業利益ともに減少
- SS事業：大型案件の増加を主要因として、売上高、営業利益ともに増加

(単位：億円)

	売上高		
	'15/3期 2Q累計実績	'16/3期 2Q累計実績	増減
PE	159	132	△27
SS	72	83	+11
合計	231	215	△16

	営業利益		
	'15/3期 2Q累計実績	'16/3期 2Q累計実績	増減
PE	△20	△39	△19
SS	△19	△18	+1
合計	△39	△57	△18



## ■2014年度末の回収、支払が一巡し、売上債権及び買入債務が圧縮

(単位:億円)

	'15/3期 期末実績	'16/3期 2Q末実績	増 減
現金・預金	195	246	+51
有価証券*1	110	110	-
売上債権	665	304	△361
棚卸資産	51	111	+60
その他	28	53	+25
<b>流動資産計</b>	<b>1,049</b>	<b>824</b>	<b>△225</b>
有形固定資産	17	16	△1
無形固定資産	21	19	△2
その他	56	56	-
<b>固定資産計</b>	<b>94</b>	<b>91</b>	<b>△3</b>
<b>総資産計</b>	<b>1,143</b>	<b>915</b>	<b>△228</b>

	'15/3期 期末実績	'16/3期 2Q末実績	増 減
買入債務	343	98	△245
前受金	51	152	+101
短期借入金*2 (8)	8	(8) 8	-
その他	82	43	△39
<b>流動負債計</b>	<b>484</b>	<b>301</b>	<b>△183</b>
長期借入金*3 (137)	137	(136)136	△1
その他	44	44	-
<b>固定負債計</b>	<b>181</b>	<b>180</b>	<b>△1</b>
<b>負債計</b>	<b>665</b>	<b>481</b>	<b>△184</b>
<b>純資産計</b>	<b>478</b>	<b>434</b>	<b>△44</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>1,143</b>	<b>915</b>	<b>△228</b>

\*1 : 有価証券は、譲渡性預金である

\*2 \*3 : カッコ内の数値はPFI等プロジェクトファイナンス・ローンの金額

## ■フリー・キャッシュ・フローは、45億円減少

(単位:億円)

	'15/3期 2Q累計実績	'16/3期 2Q累計実績	増 減
現金・現金同等物の前期残高	31	296	+265
営業キャッシュ・フロー	114	65	△49
投資キャッシュ・フロー	△11	△7	+4
<b>フリー・キャッシュ・フロー</b>	<b>103</b>	<b>58</b>	<b>△45</b>
財務キャッシュ・フロー	△11	△8	+3
現金・現金同等物の期末残高	123	346	+223

# 通期の業績予想

(単位:億円)

	'15/3期 通期実績	'16/3期 通期予想	増減
売上高	1,069	1,110	+41
営業利益	82	84	+2
(営業利益率)	7.7%	7.6%	
経常利益	82	81	△1
親会社株主に帰属する 当期純利益	50	52	+2
受注高	1,172	1,180	+8

\* 10百万円単位を四捨五入

## ディスクロージャーポリシー

### 1. 基本方針

当社グループは、企業理念に基づき、社会とともに持続的な発展を遂げるため、すべてのステークホルダーの皆様の期待にお応えし、社会から信頼され、社会に貢献し続ける企業グループを目指します。この考え方に則り、当社グループは、ステークホルダーの皆様や社会に対して当社グループに係る企業情報を公正・公平かつ適時・適切に開示するとともに、ステークホルダーの皆様と積極的にコミュニケーションをはかることにより、当社グループに対する理解促進をはかり、透明性・信頼性の高い経営に努めます。

### 2. 情報開示の基準

会社法、金融商品取引法等の諸法令および金融商品取引所の定める規則等により開示が求められる企業情報について、それぞれの法令や規則等に則り、情報開示を行います。また、法令や規則等に該当しない企業情報であっても、ステークホルダーの皆様により有用であると判断される情報や社会的に開示が必要と判断される情報について、可能な限り積極的に情報開示を行います。

### 3. 情報開示の方法

上記の法令や規則等により開示が求められる企業情報については、それぞれの法令や規則等で定められた方法により情報開示を行うとともに、当社ホームページに掲載します。上記の法令や規則等に該当しない企業情報については、その重要性や緊急性を考慮し、報道機関や当社ホームページ等を通じて情報開示を行います。

### 4. 情報開示後のコミュニケーション

開示した情報に関して、会見、説明会、取材、問い合わせへの回答等を通じ、ステークホルダーの皆様と積極的にコミュニケーションをはかります。また、コミュニケーションを通じてステークホルダーの皆様からいただいたご意見等は、当社グループ内で共有し、今後の参考とさせていただきます。

### 5. 沈黙期間

決算情報の漏洩を防ぎ、公平性を確保するため、決算(四半期決算を含む)期末日の翌日から決算発表までを沈黙期間とします。沈黙期間中は、業績予想の修正に関する情報開示を行った場合を除き、決算・業績見通しに関する会見、説明会、取材、問い合わせへの回答等は差し控えます。

### 6. 将来の見通しについて

当社グループが開示する業績予想、戦略、目標等のうち将来の見通しに関する記述は、当社グループがその時点で入手している情報および合理的であると判断される一定の前提を根拠としており、実際の業績等は様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

### 7. 社内体制の整備

ディスクロージャーポリシーを遵守し、適切な情報開示およびステークホルダーの皆様とのコミュニケーションがはかれるよう、社内体制を構築するとともに社内規程を整備します。



【本資料に関するお問い合わせ先】

メタウォーター株式会社 CSR推進室 広報IR部

Tel: 03-6853-7317 Fax: 03-6853-8709 E-mail: pr@metawater.co.jp